

事務 事業名	コード1	1045	育児支援事業	課 所 属 班 電話番号	健康管理課					
	コード2	②	子育て学級		支援班					
			☐ 主要事業		57-3113	内線	なし			
政策 体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	予算 科目	会計			款	項	目
	施策	1	保健の充実	根拠 法令	一般会計			04	01	03
	施策の展開	4	母子保健の充実							
	基本事業	136	育児支援事業	母子保健法 第9条 第10条						

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 4 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全休像を記述⇒	飯岡保健センターにおいて、生後2～3ヶ月の乳児とその保護者を対象にした教室(年6コース:1コースは平日の教室を2回)を開催している。 目 的 ①育児の仲間づくり、情報交換をすることで、子育て中の母親の孤立や閉じこもり、虐待等の予防 ②児の発達確認、保育支援等 対 象 生後2～3か月の乳児と保護者(第1子:はがき郵送にて参加勧奨 第2子以降:希望にて自主参加) 内 容 1回目:身体計測・名札作成、赤ちゃん紹介・ベビーマッサージ・絵本の読み聞かせ(2回目開催の場合有)・育児相談 2回目:事故防止について・赤ちゃんとの遊び方・妊婦との交流・サークルづくりの支援・育児相談 その他 コース終了時には、自主的組織としての育児サークルが結成できるよう支援する。(サークルリーダー等を決定) 【業務の流れ】 対象者抽出・通知⇒教室開催⇒入力・業務報告(経過フォロー者については地区担当へ申し送り・フォロー方法の検討し継続支援する)

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
臨時雇賃金＋通勤	千円			23	31		
通信運搬費	千円						
計	千円						
(育児支援事業費案分)							
【準備】通知 資料等準備 会場準備							
【当日】教室開催時間(教育・相談等)							
【事後】事後処理							
計102時間							
事業費内訳		千円	千円	千円	千円	千円	千円
財源内訳		千円	千円	千円	千円	千円	千円
国庫支出金		千円	千円	千円	千円	千円	千円
都道府県支出金		千円	千円	千円	千円	千円	千円
地方債		千円	千円	千円	千円	千円	千円
その他		千円	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源		千円	千円	千円	千円	千円	千円
事業費計(A)		千円	千円	千円	千円	千円	千円
正職員従事人数		人	人	人	人	人	人
延べ業務時間		時間	時間	時間	時間	時間	時間
人件費計(B)		千円	千円	千円	千円	千円	千円
トータルコスト(A)+(B)		千円	千円	千円	千円	千円	千円

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
23年度実績(23年度に行った主な活動) ・育児不安等についての相談指導 ・子どもの発達確認 ・子どもの事故防止についての指導 ・育児情報の提供	ア 子育て学級開催数	コース (回)	6 (12)	6 (12)	6 (12)	6 (12)		
24年度計画(24年度に計画している主な活動) ・育児不安等についての相談指導 ・子どもの発達確認 ・育児情報の提供 ・子どもの事故防止についての指導	イ							
	ウ							
② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
生後2～3か月の第1子の乳児と保護者・希望者	ア 子育て学級対象者	人	251	244	220	220		
	イ							
③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
児の発達確認を行うとともに、母の育児不安やストレスを軽減でき、楽しく子育てしていけるようになる。	ア 教室参加後の満足度が高く得られる (子育て学級に参加後、楽しみながら子育てするきっかけにできたと思えた母が増える アンケートにて把握)	%	—	—	—	—		
	イ 子育て学級参加者(実数)	人	139	156	140	150		
④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
自主的組織として育児サークルが結成できるよう支援することで、保護者同志の交流を促進し地域における子育て支援の力を高め安心して子育てできる	ア サークル結成数	サークル	6	6	6	6		
	イ							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
旧旭市、海上町では、両親学級参加者を対象とした、「すこやかママ同窓会」「さくらんぼルーム」を開催していた。合併し、他の児・保護者も参加できるように対象を広げ、生後2～3ヶ月の児(第1子)と保護者、希望者を対象にした。	地域との繋がり希薄化・家族形態の変化等に伴い育児不安やストレスを抱えている母親もいると考えられる。父親の参加も多くなってきている。	「育児の相談ができ安心することができた」「ママ友を作るきっかけとなった」「息抜きになった」「子育てが大変と思っていたが、みんなも大変さは一緒とわかった」等の意見があった。

事務事業名	育児支援事業 子育て学級	課名	健康管理課	班名	支援班
-------	-----------------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつか？意図することが上位目的に結びついているか？ 育児の情報交換や、専門職支援等によって、育児不安・ストレス、仲間づくりができ、安心した子育てができる。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 初めての子育ては、授乳やスキントラブル等の育児不安、閉じこもり、育児ストレスも出てくる。対象は、希望者も参加できるようにしているため、適切である。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？ 地域との繋がりの希薄化、家族形態・ライフスタイルが多様している中で、出産から乳児健康診査(4か月健診)まで、外出する機会、同月齢の児と接する機会が少ない。子育て学級に参加することで、外出のきっかけとなり、そのため、育児不安やストレスの軽減、孤立予防にもなっているため、妥当である。
	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？ 事業内容も充実し、専門職(助産師・保育士・図書館司書等)に指導をお願いしている。コース終了後には、自主的サークルを結成し、継続支援をしている。近隣市では、このような事業はなく魅力的な事業であり、母の育児力を高める機会となっている。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 アンケートをとり、参加者の要望や、ニーズを知り、事業内容にも取り入れることで成果は更に向上する。アンケート内容から育児のストレスが軽減できる機会となったか、楽しみながら育児するきっかけとなったと答える母親が増えることができていくかを把握する
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ↓ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 救急法の一部内容(誤飲時救急対応など参加者の発達段階にあわせて必要性が高い)を現在実施している事故防止内容に採り入れる事で、効果的内容充実を図る
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど) 事業の内容も充実されているため、回数削減はできない。パンフレット等も無料配布のものを使用し対応しているので、これ以上の経費削減は難しい。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？ 既に臨時職員の活用をしている。正規職員の業務時間の削減は、参加者の状況把握と、安全確保などから必要最低限であり難しいと考えられる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 第1子と、その保護者だけではなく、希望者も参加できるように、赤ちゃん訪問・広報等で参加を呼びかけている。そして、人数制限も設けていないため、公平・公正である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	質的事業評価として、参加者によるアンケート実施し、参加者の満足度を量る指標とする。今参加者のニーズをタイムリーに把握する

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可)		※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
☒ 目的再設定	☐ 行政関与の見直し	☒ 事業のやり方改善による成果向上	☒ 事業統廃合・連携(関連事業:乳児救急法)	
☐ 事業のやり方改善による事業費削減	☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減	☐ 受益機会の適正化	☐ 費用負担の適正化	
☐ 廃止・休止				
(2)改革改善案について				
※いつまでに、なにを、どうするのか？				
①教室内容の充実を目的に、内容検討し作成する。 ②H25年度、アンケートの実施・集計及び課題の抽出を行い、参加者のニーズを把握。乳児期の事故防止緊急時対応の充実を図り、消防署と連携を検討。 ③H26年度、アンケート結果を反映した参加者のニーズにそった内容を取り入れ実施予定。 ④H26年度内容反映させた新アンケートを作成し、実施予定。				
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策				
①内容の充実を図る上で、現在のコースと実施回数では、今の内容を網羅した上では厳しい。アンケートにて参加者の最も高いニーズを把握し、より望ましい教室の実施に向けて、充実させる内容と削減する内容の検討及び実施につなげる。 ② ③				